

## 総合文学研究Ⅲ(言語学の方法)

### 授業内容

この授業では、チョムスキーの *Aspects of the Theory of Syntax* (『文法理論の諸相』(以下、『諸相』))の第一章"Methodological Preliminaries"(「方法論的序説」)をテキストとして、言語学の方法論について理解を深めることを目的とします。

『諸相』の第一章では、それまでの哲学者(デカルト、ライプニッツ、ロック、カドワース、フンボルトなど)や文学者の言語観、ポート・ロワイヤル文法での言語観、伝統文法での言語観、(ソシュール・ブルームフィールドなどの)構造主義言語学での言語観などについて詳しく述べた上で、生成文法での言語観へと議論が進んでいます。さらには、言語習得(生得論と経験論の違い)や言語理解などについての記述もあります。『諸相』は今から40年以上前に書かれたものですが、その内容が明確でしかも示唆に富んでいることが、その後の言語研究を飛躍的に発展させた一因と言われるほどの言語学の歴史上金字塔的な著作であり、現在でもその価値は依然として高いと言えます。

上記のように、『諸相』第一章の内容は一般的な言語学の方法論に関することですので、理論言語学の技術的細部に関する議論はあまりありません。日本語学(国語学)・英語学・フランス語学・ドイツ語学など、言語研究に従事している方はもちろんのこと、文学研究を専門としながらも言語についても興味のある方も十分対応できるように授業を進めていく予定です。

なお、テキストは、英語または邦訳どちらを使っても構いません。

### 履修上の注意

特になし

### 教科書

Chomsky, N. (1965) *Aspects of the Theory of Syntax*, MIT Press.  
(『文法理論の諸相』安井稔訳、研究社、1970)

### 参考書

### 成績評価の方法

授業への参加とクラスでの発表による。